

2022 年 1 月 14 日 IRDAY

第 2 部 (DX) 14 : 10-15 : 00

登壇者 : 執行役員 経営企画本部 経営企画部長 DX 推進部担当 藤原 寛英

Q1. AI を活用した加工の在庫引当・食肉の荷繰り業務、及びスマート養豚の定量的目標について

A1. 40 人~50 人分が担っている作業工数を AI によって代替え出来ると見込んでいる。また、AI 化により、販売のチャンスロス・廃棄ロス削減・直送率の向上等効率化も見込まれる。スマート養豚は、標準的な農場で投資を行った場合、5 年以内に投資回収できると見込んでいる。今後は、活人化が重要であり、より付加価値のある業務に人的資源を集中させていきたい。

Q2. 24 年 3 月期に計画している DX 投資による効果発現の見通しについて

A2. 24 年 3 月期に計画している 40 億円の DX 効果は業務の効率化だけにとどまらず、既存事業の更なる拡大・強化、新規事業の領域拡大といったことも見込んでいる。DX 効果の発現時期や規模は、Quick Win の創出でより早期の効果発現と同時に、計画以上の効果となるよう目指していきたい。

Q3. DX 費用の投資規模の大きさについて

A3. 当社が DX 費用として算定している計画は、新システムのみならず既存システムとの並走期間におけるシステム保守費用・現場への理解浸透を図る教育費用等、その他諸経費も含まれている。他社と比較しても、DX 費用が高額との認識は持っていない。

Q4. DX 投資の進捗や課題、株式市場への理解促進に向けて

A4. 概ね計画通り進捗していると考えている。実行するにあたり、今後は現場との連携が非常に重要であるため、DX 推進部・IT 戦略部が各事業部と連携し、導入に向けた情報共有を進めている。また、株式市場の理解がより進むためにも、決算発表やアナリスト説明会で共有できるような KPI を示していきたい。

以上